

【現状・課題】

■ まちづくり、まちの変化との関わり

生産年齢人口の減少・従業人口の減少
高齢人口の増加
学生数は微増（大学生は増加・高校生は微減）
駅から離れた地域等での人口増加

コロナ禍前は観光客による混雑が発生
コロナ禍を受け大幅に減少した観光利用は、
時期は不透明なものの、今後回復

「歩くまち・京都」総合交通戦略2021、
京都観光振興計画2025 などの関連計画
⇒ ・生活交通の維持・確保
・公共交通の利便性・快適性の向上

■ 交通局の経営状況

＜コロナ禍前からの経営課題＞

輸送安全確保のため、車両・設備の更新に多
額の費用が必要
全国的な担い手不足に伴う人件費の増加・
軽油価格の高騰

＜コロナ禍による影響＞

市バス利用者は大きく減少
運賃収入も大幅減となり、未曾有の経営危機
利用者数は回復傾向にあるものの、
令和3年度はコロナ禍前の ▲25.1%の状況
（定期外 ▲39.0%、定期 ▲19.2%）
通学定期券の減少幅が大きい。

■ データから見る市バスのご利用状況

令和3年の旅客流動調査の結果では、コロナ
禍で利用者が減少しているにも関わらず、中
心部では1便当たりの利用者は多い。
また、黒字基調であった頃の平成24年調査と
の比較でも、中心部と周辺部のご利用の割合
などに大きな傾向の変化は見られなかった。
周辺部では、中心部や鉄道駅から離れるほど
利用者数が減少、運行本数に対して利用が少
ないエリアがある等、一部で効率が低い。
周辺部から中心部へ乗換せずアクセスする利
用が多いが、外郭道路上等での乗換も一定数
ある。

【検討の視点・方向性(案)】

- 安定的な事業運営で市バスネットワークを維持
- 将来にわたって市民生活と都市活動を支えていく

① 日々のご利用のお客様の利便性の確保や 向上等への対応

- ・ 約半数を占める「通勤」と「通学」でご利用の
利便性はしっかりと確保し、更なる利便性の向
上も目指します。
- ・ 「買い物」や「通院」などの高齢化の進展も踏
まえた昼間の需要に対応できる路線・ダイヤを
目指します。
- ・ 毎時同分に発車するパターンダイヤなどのご利
用しやすいダイヤ編成をさらに進めます。

② 観光でのご利用のお客様への対応と市民 の皆様の日々のご利用との調和

- ・ 既設系統の増発や臨時便の運行、観光系統の
充実など、観光利用の回復に応じて輸送力を
強化、混雑の抑制に取り組みます。
- ・ 地下鉄をはじめとする鉄道を組み合わせた
スムーズな移動へと観光客を誘導します。
（移動ルートの分散化）

③ 事業運営の一層の効率化

- ・ ご利用状況に応じた運行本数となるよう輸送力
を再配分（増便／減便）します。
- ・ ご利用が少ない地域については、路線を維持し
つつ、地域ごとの特性や需要と供給を踏まえた
適正なルートや運行本数などについても留意し
たうえで、効率的なバス運行となるよう見直し
を行います。

④ 新たなご利用の開拓

- ・ 鉄道駅への接続など、便利なルートを設定する
ことで、新たな需要の創造に取り組みます。
- ・ 分かりやすい情報発信、情報提供の強化で、
日々のご利用はもちろん、あまり市バスをご利
用にならない方の利用促進を図ります。
- ・ 地域の皆様と連携してモビリティ・マネジメン
トを推進します。
- ・ 未来を担う子どもたちをはじめ幅広い年代の皆
様に快適にご利用いただける環境づくりを目指
します。

取組(案)（在り方）

1 より多くの皆様にご利用いただくための取組

路線（系統）のブラッシュアップ

- 京都駅周辺や四条界隈、主要な鉄道駅への接続を基本とした路線の利便性向上
- 目的地へ直通する経路のほか、乗継ルートも活用いただける多様な系統網の構築
- 朝夕の「通勤・通学」や昼間の「買い物・通院」など、使いやすい行先・ルートの検討
- 駅前広場の整備に合わせた乗入れ拡大など鉄道駅への接続強化 など

便利で使いやすいダイヤ編成

- 系統の特性に応じた分かりやすいパターンダイヤの更なる導入
- 同一区間を運行する系統間の運行間隔の調整
- 鉄道との乗継がしやすいダイヤ設定
- 区間運転時分の調整や折返し時分の設定など、定時性向上に向けたダイヤ設定

幅広い世代のお客様の確保に向けた取組

- 未来を担う子どもたちに向けた、市バスへの親しみや理解が深まる取組の推進
- 通院や日常のお出かけなど、高齢者にとっても利用しやすい路線・ダイヤの検討
- 通学ルートの利便性確保及びご利用の多い時間帯の増発 など

市民との協働による事業の推進

- 地域主体のモビリティ・マネジメントとの連携

分かりやすさの向上

- ホームページ、バス停、車両の案内表示など、情報提供の充実
- バスの行先表示器のフルカラーLED化に伴う視認性の高い行先表示の検討 など

公共交通の利用促進に向けた各種施策との連携

- 公共交通を活かしたまちづくりとの連携

経営状況等の見える化

- ホームページやSNSなど、多様な広報手段を活用した情報発信（見える化）の推進

2 京都を観光で訪れる旅行者の皆様により便利で快適に 市バスをご利用いただくための取組

市民生活と観光との調和を目指した系統の運行

- 既設系統の増便や「楽洛東山ライン」等の臨時便の運行
- ご利用の回復に応じた、観光での利用が多い既設系統の増便
- 「楽洛ライン」の充実など、ニーズに応じた新たな観光系統の運行の検討
- 最繁忙期における民間バス事業者との連携

地下鉄をはじめとする鉄道と組み合わせた移動経路への誘導

- 観光のお客様への地下鉄などの鉄道と市バスを組み合わせた移動経路の案内
- 観光シーズンにおける市バスから地下鉄への無料乗継の継続・充実

旅行者の皆様へのキメ細やかな案内

- 京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による案内活動
- 手ぶら観光の推進

3 より一層効率的な市バス事業の運営を行っていくための取組

ご利用状況に応じた輸送力の再配分

- ご利用の多い系統の増便（コロナ禍により減便している系統の復便）や、地域ご
との特性を踏まえた運行回数の見直しの検討
- 時間帯や平日・土曜・休日のご利用状況に応じたダイヤ設定

運営の効率化

- ご利用が見込める区間での回送の営業運行化の更なる検討
- 系統の担当営業所や操車場の見直しなどによる効率的な運行の検討

4 ご利用の少ない路線を維持・確保していくための取組

地域ごとの特性に応じた路線の維持・確保の取組

- 民間バス事業者との連携による路線の維持
- ご利用の少ない地域では、系統の統合など効率化を図りつつ路線を維持

運行サービスの水準の検討

- 地域ごとの状況を踏まえ、一定の運行頻度を確保しつつ市バス運行を維持